



社協 お知らせ 第6号

発刊日：平成21年3月17日

内部地区社会福祉協議会 広報部 TEL 059-347-1224

内部地区ホームページダイジェスト版

今期最後のお知らせ版になります。広報部では、よりたくさんの方々にホームページをご利用していただくとう内部地区ホームページを去る2月21日にリニューアルいたしました。よりシンプルで見やすく、かつ内容の充実を目指しましたので引き続きご愛顧のほどお願い申し上げます。

今回のお知らせ版は、10月からの2月までに内部地区ホームページに掲載した記事をご紹介します。紙面の関係で全てをご紹介しますが選りすぐりの記事をご紹介します。



内部地区ホームページにアクセス！
URL <http://www.utsube.jp/>



図1 アイコン

手順1・パソコンを起動し画面にインターネットエクスプローラーのアイコン(図1のアイコン)が表示されたらアイコンをクリックしインターネットエクスプローラーを起動します。

手順2・インターネットエクスプローラーにURLを入力し更新ボタンをクリックしますと内部地区のホームページが表示されます。

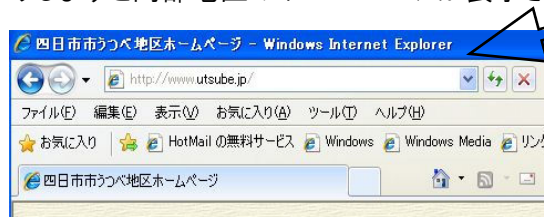


図2 URL入力部サンプル

ダイジェスト記事目次

采女城跡にイノシシ	2P
内部川国勢調査	2P
ものづくりに挑戦	2P
どんど焼き	3P
モズの「はやにえ」	3P
戦前の消防ポンプ車	4P
収穫祭でそば打ち	4P

采女城跡にイノシシ！！？(2008/9/13)

采女城跡保存会による定例の整備作業の際、采女城跡の二の郭にイノシシによるものと思われる土を掘り返した跡がたくさんあるのを発見しました。イノシシは牙と鼻を柔らかい土に突っ込んで10～20cmの深さに掘り進み乱雑な掘り跡を残します。二の郭の掘り跡は雨で形が崩れていましたが、鈴鹿山ろくでよく見掛けるイノシシの掘り跡そのものでした。采女城跡が位置する泊丘陵地はタヌキやイタチなどの小動物やサルを見かけたという話は耳にしますが、イノシシは初めてです。隣の波木町の畑にはイノシシが出るので「わな」を仕掛けることもあるそうです。かつては波木や貝家の丘から森や畑で繋がっていた泊丘陵地の森は、開発が進み今では右の写真に見る通り完全に隔離されています。隔離された種がここに住み着いているのか？ それとも西のほうからやってきたのか？ とすると、どうやって？ なぜが深まるばかりです。

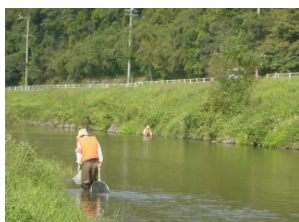


5 × 6 m くらいが一面掘り



10 cm くらいの

内部川の国勢調査(2008/10/11)



内部川の調査風景

内部東小のふれあい祭り「ものづくり教室」(2008/11/1)

11月1日(土)内部東小学校のふれあい祭り「ものづくり教室」が行われ、全校生徒とその父兄が地域の人と一緒に昔ながらのおもちゃを手作りし、遊びました。

この催しは東小PTAが企画し3年前から行っているもので午前中が授業参観と開会式、午後からがものづくり教室です。当初は内部っ子はげまし隊の熟年知識を活かして子供たちに竹とんぼなど竹細工を中心としてもものつくりを指導する形で始まり、昨年は婦人会が合流して布やビーズを使ったメニューが加わっています。

(3ページ上に続く)



今年から昔のおやつメニューが取り入れられ、げんこつ飴つくりは大にぎわいでした

(2ページ下より続き)

内容も年々変化し、今年は作ったものを楽しむだけでなく、味わう、遊ぶ要素も取り入れられ、昔のおやつの「げんこつあめ」作りや校庭での「かつちん」遊びも行われました。生徒たちはそれぞれ自分の好きなブースに参加して父兄と一緒にって取り組んでいました。



竹とんぼづくり・合唱・かつちんなどの様子

郷土の伝統行事・・・どんど焼き (2008/12/13)



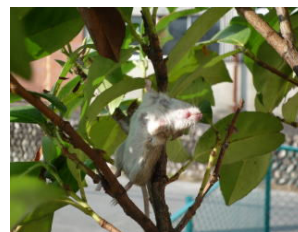
田の中央部の農道に立てられたどんど櫓。

よく晴れ、冷え込んだ12月13日早朝6時、四日市市北小松で新年の無病息災、五穀豊穡を願う伝統行事「どんど焼き」が行なわれました。地元で活動する「北小松どんど福寿会」が5年前から復活させたもので、会のメンバーを始め地域の子供たちからお年寄りまで約80人が見守りました。2週間前から会のメンバーは鎌谷川北方の田の中に青竹と丸太を組んで直径約3m・高さ約8mのどんどのやぐらを準備してきました。6時の時報と同時に周囲から火をつけるとものすごい勢いで燃えはじめ、ぱちぱちとはぜてあつという間に炎は空高く燃え上がりました。この後焼けたどんどのもちを焼いていただきました。どんど焼きは半世紀前ごろまでは12月7日の「山の神」の行事として行われ、子どもたちは木を芯にした青竹を立て懸けたどんどをつくりその中で寝て、朝早くに焼き、火がおさまってから学校に行ったものだそうです。都市化とともに失われつつある地域の伝統行事を守り、次の世代に伝えようとするこのような活動は、街づくり・地域作りのためにも大いに進めてほしいものです。

こんなところに・・・モズの「はやにえ」 (2009/1/7)

内部地区市民センターの裏手(南側)のカシ(多分アラカシ)の木の中、2mくらいのところの枝に・・・びっくり！・・・ネズミが突き刺さっていました。口や手足もまだピンク色で干からびた様子もなく、できたばかりといった感じです。

モズは肉食でカエルやバッタ、毛虫などをとらえて食べますが、獲った獲物は木の枝などに突き刺しておく習性があり、「はやにえ」といわれています。伸び放題に茂っていた桧の木を剪定していて発見しました。こんなところに「はやにえ」があるとは！！ すぐそばにも皿型の巣がありました。市民センターの南側には水路や田んぼが近くにあり、きっとえさが豊



「はやにえ」の状況写真
中央の枝にねずみが・・・

北小松で戦前の消防ポンプ車の整備が行われています (2009/2/3)

その昔、内部村消防組北小松区が使っていた消防ポンプ車が北小松町内の倉庫に放置(保管)されていましたが、有志の手できれいに整備されエンジンが可動するまでに修復しました。

このポンプは昭和11年製の日本消防機製造株式会社タービンポンプでエンジンはフォード社製です。今後このポンプが使用できるか調べてゆくつもりです。古いので修復には市の補助は期待できないようですが何とかならないものかと思案しています。整備の際一部から博物館に行きとの声もあり、文化財的、歴史遺産的な価値はあるものと思われます。

ネットで関連情報を調べたところ下記の記事を見つけました。

<http://www.facm.net/new/kako135.htm>

なんと！！、四日市消防署の常盤分団にもこのメーカーの三輪消防車(年式1937年・昭和12年)が保存されているようです。



ポンプ車全景



ポンプ車の後ろ。ここに
右の銘板が貼ってある



メーカーの銘板



取り扱い説明の書かれた部分
1 練習第一 2 急ぐべからず
3 知らぬは失敗の基と記されています。

(2009/2/10)

そばの植え付けから始めてそば粉を取り、そばを打って食べる。シニア究極の趣味ともいえるそば打ちを楽しんでいるのはシニアグリーンカレッジの菜園オーナーのおじさんたちです。四日市市農業センターが運営するシニアグリーンカレッジ(SGC)では2月10日内部地区市民センターで、メンバーが育てたサツマイモ、人参、そばなどの野菜を持ち寄り、センターの調理室で料理して収穫を祝いました。おじさんだけではどんな料理ができるかおぼつかないためこの日は奥さん同伴での参加となりました。料理のメイン素材はサツマイモとそば、女性陣はサツマイモを使ったパンや菓子づくり、男性陣はもつぱらそば打ちを楽しんでいる様子でした。この一貫そばづくりはメンバーの提案で生まれたもので、貝家町のグリーンカレッジの畑の空き地に昨年9月に種をまき、この冬約4kgのそば粉を収穫しました。そば打ちにはメンバーの中に道具一式を持つそば名人がいてみんなを指導しました。ソバ栽培の様子は農業センターのホームページをご覧ください。 <http://www.city.yokkaichi.mie.jp/farm/gsc/nikki-10-01.html>



麺棒の使い方を指導する名人
(左端)

回 覧										